

いしずえ

## 礎

## 茨城県民間保育協議会青年部

■部長再任に際して（2013-2014年度）■

茨城県民間保育協議会青年部部長  
藤崎 貴英（北浦保育園・いなほブロック）

## 『当たり前前事を当たり前前』

～諸行無常の時勢に、我々を変えてはならないものとは…～

茨城県民間保育協議会青年部の皆様には日頃より熱心なる活動を、そして温かなお心と多大なるご協力をいただいておりますことに深謝をいたします。

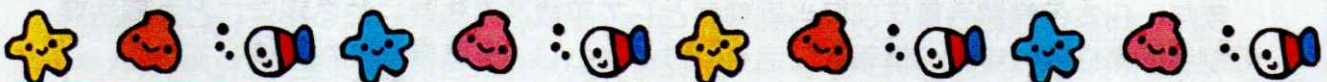
昨期は青年部テーマを「青年部の存在意義」として掲げ、青年部という組織をある意味第三者的に外側から診ながら活動して参りました。一期の活動を終えた今、皆様如何ですか？委員会活動を軸に、達成感を持って終えられた方、いやいやまだまだやり残したことが沢山あると仰られる方、とご意見、お考えは様々であろうかと思われまます。また、青年部組織そのものについては、どのように受け止められたでしょうか？

そして今期の青年部テーマを『一個人としての“自立と自律”』といたし、二期目に突入しました。昨期とは真逆に今期は青年部を内側から、そして皆様が各々に自分自身をそれぞれみつめ活動をしていきながら、各メンバーとお互いに切磋琢磨できれば、と考え立てたテーマであります。また、青年部活動のバックボーンとなる委員会活動も、昨期中途から一つ増設し現在は五委員会体制と相成りました。この五委員会が会毎の活動を基本とし、時に意図的にそれぞれの枠を超越した横の連携を図り、単一委員会では成し得ない大枠で捉えた拡大委員会としての活動を交えながら、委員会活動を内容のあるそして終えてから確かな達成感を味わえるものにできるよう、一人ひとり気を引き締めて活動をして頂きたいと考えます。

昨期に皆様が持たれた感想、ご意見を今期の声として活かして、これまで以上に青年部が盛り上がり上げていけたらと考えます。自分自身これまで長きに渡ってこの青年部にそして諸先輩方に大変お世話になり活動をしてきた中で、自分なりに見えてきたものが多々あります。この青年部活動ができるのもあと僅かとなったこの身分。皆様の思いと自分の思い、良い点もそうでない点もどこかで共有出来るところがあるならば沢山お話をさせていただけたら幸いに存じます。私が小学校四年生時分に担任であった熱血女性教諭が何かある度に口に出しご教授頂いた言葉が“ONE FOR ALL , ALL FOR ONE!”。35年過ぎた今でも胸に響く大好きな言葉です。

最後とはなりますが、ここに集う青年部メンバーお一人おひとりが、茨城県民間保育協議会青年部の一員であるという意識（自覚）を胸に、保育という仕事にやりがいを、何より職員にもそれを実感しながら日々の保育ができるよう心一つにして共に精進して参りましょう。

「青年部メンバーの皆様、『今期も何卒よろしく願いをいたします。』」



## 今号の「礎」

今回の「礎」は、新体制になって初めての発行なので、以下の項目を掲載しています。

- ・再任した青年部部長の挨拶
- ・茨城大会実行委員会委員長兼私保連担当副部長と日保協担当副部長からの挨拶
- ・青年部各委員会の委員長紹介と抱負など
- ・新体制の茨城県民間保育協議会青年部の組織図



**全国私立保育園連盟青年会議担当 副部長**  
**柳澤 克彦（国分台ふたば保育園 いしおかブロック）**

### 第33回 公益社団法人全国私立保育園連盟青年会議 茨城大会実行委員会について〔活動報告〕



去る平成25年6月28日に本大会会場の水戸プラザホテルにて、  
（公社）全国私立保育園連盟青年会議会長三木充信氏を含め、  
8名の執行部の皆さまが、茨城大会に向けての事前訪問に訪れました。

大会顧問でもある茨城県民間保育協議会会長の代理として、副会長の工藤義人氏にご臨席を賜り、藤崎青年部長よりもご挨拶頂きました。

大会事前会議として、保育通信7月号に同封の大会申込書を基に準備状況について、各部長から報告をいたしました。総務部からは、大会2日間の日程についての説明、広報部からは、大会申込書について詳細、研修部からは、基調記念講演・分科会講師についての説明、式典部からは、大会会場についての説明を行いました。説明後、執行部から大会に向けてのアドバイス等、多くの検討事項を頂き、予定時間を超える有意義な会議となりました。

三木会長からは、この大会は、事実上茨城大会の実行委員会が主に準備を進めいただいておりますが、主催は、（公社）全国私立保育園連盟青年会議となっている為、茨城大会実行委員会と共に協力し、成功に努めて行きたいとありがたいお言葉を頂きました。

その後、各会場の見学をする中で、水戸プラザの気品ある建物、落ち着いた雰囲気、当日の参加する方々に最高のおもてなしが出来るのではと高く評価して頂きましたが、まだまだ、詳細が決まっていない点や確認しなくてはいけない点があります。

当日までの準備期間、実行委員会の皆さまにおかれましては、更なるご尽力とご協力を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

また、この大会に対して、民間保育協議会の総会にて、承認された大会予算ですが、要望をはるかに上回る予算を計上して頂き、心から親会の皆さまに感謝申し上げます。これも、大会への期待と受け止め、大成功に実行委員会のメンバー丸となって努めて行きたいと存じます。

大会申込みが始まりましたので、是非、多くの皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げます。

大会の参加申込み締切日は以下の通りとなります。

【第一次申込締切日】平成25年8月9日（金）

【第二次申込締切日】平成25年9月6日（金）

**日本保育協会青年部担当 副部長**  
**堀 信晋（日の出保育園 いなほブロック）**



みなさんこんにちは。私は今期、副部長を務めさせていただきます堀信晋と申します。どうぞよろしくお願い致します。今期は藤崎部長の掲げる「自立と自律」という目標を念頭に置き、今まで以上に県の青年部活動が活発になるよう行動してまいりたいと思います。

また、日本保育協会青年部担当副部長として平成27年度に迫る認定こども園法等の制度改革に向け中央の情報をできるだけタイムリーに県青年部へ発信していき、これからの保育界を担うであろう私たち青年部メンバーの将来を考える一つのきっかけになるよう努めてまいります。

最後に、「人生に失敗はない。あるのは学びと成功のみ。人生のどんな局面も自分を成長させ、成功させる学びの道場である」青年部らしく活動してまいりましょう！それでは皆様どうぞよろしくお願い致します。

**調査研究委員長 藤峰 望夢（恵泉保育園 県央ブロック）**

今年度より茨城県民間保育協議会青年部調査研究委員長を務めさせていただきます藤峰望夢と申します。今年度の調査研究委員会は、総勢11名の委員により、県内の保育所における様々な分野のアンケート調査を実施していきます。また、例年行っている各市町村の保育料基準表についても、新制度に照準を合わせて継続していく予定です。なかなか物事を実行に移すのが遅い私ですが、頼りになる委員のメンバーと共に、藤崎部長による「自立と自律」の言葉を意識して活動していきます。そしてこの委員会活動が、自らの成長と、微力ながらも皆様のお役に立つ事が出来る実りある活動となることを願う次第です。どうぞよろしくお願いいたします。



**研修委員長 鬼澤 英二（つくし学園 ひたちなかブロック）**

研修委員会も、今年度より新たなメンバーで活動することになりますが、引き続き各委員会と連携しながら活動できることを願っております。保育情勢が刻々と変化していく中で、これから私たちが学ぶべきことや、「人材育成」「専門力向上」についての研修など、包括的な視点で一人でも多くのニーズにお応えできる内容にしていければと思っております。今年度も皆様のご参加ご協力をよろしくお願い致します。



**渉外委員長 浅野 学志（めぐみ保育園 県央ブロック）**

渉外委員長を拝命いたしました浅野です。幼保一体、認定こども園、小規模保育、民間の参入と私たちは激動の時代を生き抜いていかなければならない世代として、この青年部があることを忘れてはならないと思います。青年部らしくフットワークを生かし、敏感に情報を収集し勉強することも大切ですが、研修や勉強だけでは補えない部分は沢山あります。交流から生まれる智恵やアイデア。そういったものは今後私たちの強みとなり宝となっていくものだと感じます。

渉外委員会は他の委員会のサポートは元より、交流を通じた青年部の活性化に注力して参ります。



**特別委員長 松山 圭一郎（まつやま中央保育園 稲北ブロック）**

このたび、藤崎部長より「何をやっても良いから！」という心強い一言で委員長という大役を仰せつかりました松山圭一郎と申します。特別委員会は次の2つの活動をクリエイティブに行なってまいります。

- ①「子ども・子育て支援新制度についての情報発信・勉強会開催」
- ②「新卒向け就職合同セミナー開催」

いずれの活動も皆様のニーズに応えられるように役員会・各委員会との連携も図りながら、新たな風を吹き込めるように努力していきたいと思しますので、皆様のご理解とご協力、よろしくお願い申し上げます。

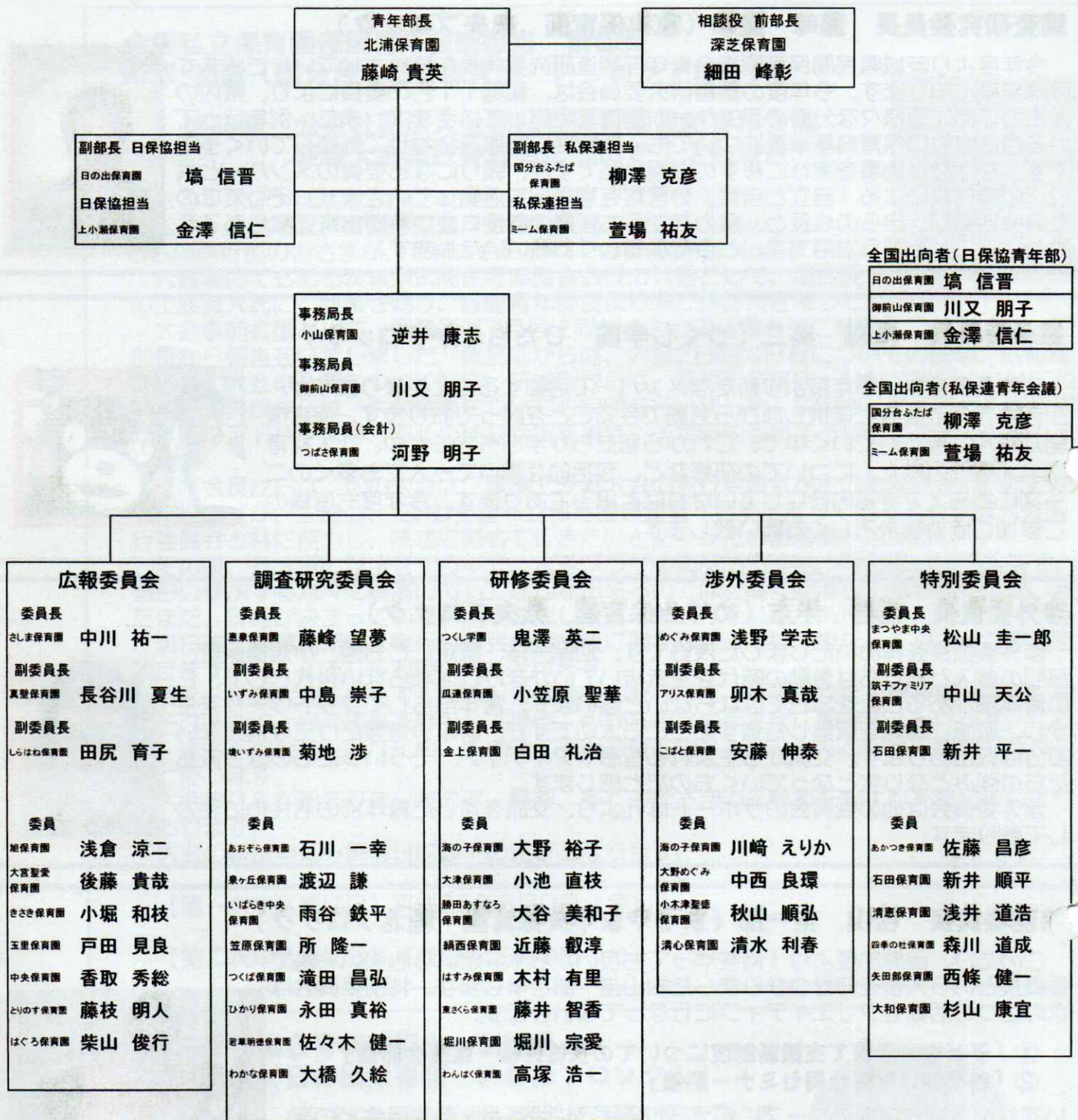


**広報委員長 中川 祐一（さしま保育園 県西ブロック）**

藤崎部長も使われた「諸行無常」という言葉。震災直後はこの「無常」を語る方を多く見かけました。全てのもので変化しないものはない、今日のような日常が永遠には続かないという、この世のはかなさを意味した言葉ですが、ご多分に漏れず、この保育業界でもこれから大きな変化が起きようとしています。「伝統は革新の連続」とも言いますが、革新とまでは行かないまでも、この2年間広報委員長として、「礎」の発行を通し、変化を求めているいろいろなことにチャレンジしてみたいと思います。ご意見、ご要望などありましたら遠慮なくご連絡ください。 → さしま保育園メールアドレス [sashima@dreams.ne.jp]



# 平成25年度 茨城県民間保育協議会青年部 組織図



## 茨城県民間保育協議会青年部とは・・・

青年部は、50歳未満の県内民間保育園従事者で構成されています。さまざまな事業を通し、保育事業の振興を目的とした茨城県民間保育協議会の一部会として活動しながら、同時に各部員の情報交換、親睦を深めています。

最近では、待機児童をゼロにしたいとする横浜市が部員間のメールのやりとりの中で話題となりました。きっかけは「週刊文春」7月11日号に掲載された「横浜方式の暗部」という記事でしたが、そこでやり玉にあげられていた保育園を経営する株式

会社の社長は、過去に青年部で研修会の講師にお招きしたことがあります。したがって確固とした理念をもつ社長の人柄を知る部員には煽情的な記事に違和感を抱いた者もいたようです。

週刊誌の記事は『保育園の「利用者」とは、保護者ではない。ものを言えぬ子供なのだ。子供たちの安全や人権を守り、保育士の処遇をきちんとはかれる企業だけが参入できるように、チェック体制がなければ・・・(記事から抜粋)』としめくくっていましたが、株式会社への参入の是非はともかく、部員一同で「子供最優先」をあらためて確認いたしました。(N)



10月29日、30日と『第33回全国私立保育園連盟青年会議茨城大会』が水戸で開催されます。現在、本大会に向けて実行委員メンバーが一丸となって準備をしています。これまで機会に恵まれず青年部活動に参加をすることができなかった皆様におかれましては、これを機に是非一緒に活動をいただければ幸いです。もちろん、大会終了後の青年部活動も一緒に如何ですか？ 茨城大会開催の詳細は同封の大会要項をご覧ください。【藤崎】